

バチカン写本 (Codex Vaticanus) はシナイ写本、アレクサンドリア写本と並び現存する三大ギリシャ語写本の一つで、4 世紀に作られた旧約聖書・新約聖書のギリシア語写本です。759 葉からなる羊皮紙によるコーデックス(冊子形式)の形を採っており、大文字の一般的な書体であるアンシャル体で書かれています。バチカン写本という名称は 1475 年以來、バチカン図書館の蔵書目録に記録されていることから来ています。

マカバイ記第 1 から第 4 およびマナセの祈りを除く七十人訳聖書全巻と、4 福音書、使徒行伝、一部のパウロ書簡、ヘブライ人への手紙の途中まで (9:14 καθαριεῖ まで) を含み、公同書簡とフィレモンへの手紙およびヨハネの黙示録がありません。

新約聖書写本の型としてはアレクサンドリア型の最古層かつ代表的なもので、更に旧約部分も、七十人訳聖書の現存する写本としては極めて古く、本文批評において、極めて重要な写本です。

(参照文献)

Wikipedia : [「バチカン写本」](#) 最終更新 2014 年 10 月 19 日 (日)